

絆・東日本応援プログラム

――はじめに――
東日本大震災から一年が経過しました。

沖縄総合事務局では、東日本大震災の発生から一年を契機に、震災の記憶を風化させず、沖縄から東日本の復興を応援するためのプログラムを開催しました。

プログラムは、大別して、「被災地を応援する応援プログラム」「災害に強いおきなわプログラム」で構成しました。

プログラムは、大別して、「被災

主なプログラムの紹介

I 被災者を応援する プログラム

「放射性物質と食品の安全性に関する講演会（農林水産部消費・安全課）」

福島第一原子力発電所の事故発生から1年を迎えるに当たり、より一層の食品の安全と安心を確保する観点から、四月より、現在の暫定規制値で許容している年間線量5ミリシーベルトから年間線量1ミリシーベルトに基づく基準値に引き下げられました。

これを機に、多くの国民、県民の皆様に放射性物質と食品についての正確な情報の提供と安全性の理解を深めていただくため、食品

中の放射性物質による健康への影響、新たな基準値の考え方や、基準値の実効性を確保するための食品中の放射性物質の検査の現状と今後の取り組み、更には、農業生産現場における対応について、食品安全のリスク評価機関である内閣府食品安全委員会事務局、リスク管理機関である厚生労働省及び農林水産省から4名の担当官を講師として招き、3月14日に那覇第二地方合同庁舎において講演会を開催しました。

会場には120名余の消費者が参加し、熱心に聞き入り、活発な質疑がなされ、食品の安全性に関する関心の高さが伺われました。この講演会を契機とし、食品安全に関する理解が深まり、今後の食生活について考える一助となることを期待しています。



講演会の様子

「被災地応援イベント開催協力（絆・東日本応援プログラム）」
経済産業省の被災地支援事業を活用し、一般社団法人TAO FACTORYが、沖縄市一番街商店街において被災地域の特産品を販売する「福島応援物産展」及び被災地域の子供たちによる現代版組踊「息吹」のアトラクションを実施しました。



沖縄市一番街商店街での「福島応援物産展」の開催風景

「復興応援講演会（運輸部企画室）」

沖縄の観光関係者及び物流関係者一人一人が被災地・被災者のために今後何ができるか、沖縄が被災することを想定して、どのような備えをしておくべきかを考え契機とするため、被災地・被災者への支援に貢献した方をゲストに招いた講演会を開催しました。

第一部

社団法人日本ホテル協会
沖縄支部長 平良 朝敬氏

講演テーマ

「安全・安心の観光地づくり」

第一部

一般社団法人日本旅行業協会

沖縄支部長 東 良和 氏

講演テーマ

「日本を元気に、旅で笑顔に。」
旅行業界の復興支援取り組みについて

第三部

社団法人沖縄県トラック協会会長

國吉 保武 氏

講演テーマ

「社団法人沖縄県トラック協会の復興支援の取り組みについて」

第四部

講演者とのフリートーク



復興応援講習会風景

(於：沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ)



防災備蓄食及び非常持ち出しセットの展示風景

「東日本大震災から1年を振り返る」メモリアル展（総務部総務課）

東日本大震災の発生から1年がたちましたが、震災の記憶を決して風化させず、被災者支援の取組を継続させるとともに、震災の教訓として、県民の皆様の防災意識を高めることを目的に、以下の取組を実施しました。

①東日本大震災関連のパネル展示
②防災備蓄食及び非常持ち出しセットの展示
③沖縄気象台提供のパンフレット配布
④東日本大震災関連のDVD上映

Ⅱ 災害に強いおきなわ プログラム

※詳しい講演内容は、以下の当局ホームページURLで確認できます。

<http://ogb.go.jp/okiunyu/kankou/kouen.pdf>

「災害対策室の一般開放」及び「小学生を対象とした防災学習会」の開催（開発建設部防災課）

沖縄総合事務局では、沖縄地域の防災活動の拠点として庁舎2階に災害対策室を設けています。災害対策室は、災害情報の集中管理が管理する道路やダム、港湾施設などの現場に設置されたカメラの映像を見るることができます。今回、防災意識の向上を目指し、県民の皆様に公開しました。

また、東日本大震災の教訓を基に、未来を担う子供たちの防災意識の啓発を目的に防災学習会を実施しました。3月12日（月）は那覇市立前島小学校5年生41名、13日（火）は那覇市立泊小学校6年生138名が参加しました。

学習会では、東日本大震災被災地の小学校、中学校における津波避難の好事例や那覇市の津波対応への取り組みとして海拔表示の紹介を行いました。また、川遊びの注意点など身近な水難事故防止の学習も行いました。

生徒からは「防災学習会で学んだ事を忘れずにいること、また、それを周囲に伝えていきたい。」などと感想がありました。

行つた防災学習会を通して、子供たちの防災意識の向上に繋がったのではないかと考えています。

小学生を対象とした防災学習会風景



(泊小学校)



(前島小学校)

——最後に——

沖縄総合事務局では、今後とも幅広い分野で、復興支援に向けて総合力を発揮しながら、被災者の皆様及び県民の皆様の御期待に応えるべく努力を続けてまいります。